

## 第26回スポーツ・ボランティア・リレートーク レポート

2013年8月30日（金） 19時より21時

中央市民センター 第1セミナー室（A）

参加者 24名

「スタジアムDJと呼ばれて～これまでとこれから」

講師 ベガルタ仙台スタジアムDJ 大坂ともお氏



サービス旺盛な大坂さんは、早めに集まった参加者にこんな話しをしてくださいました。

### 【ベガルタ仙台について】

現在11位（8月30日現在）という成績ですが、なぜ、今年は11位なのかということについてお話ししたいと思います。その要因ですが、決して今年のベガルタが弱くなったのではありません。最大の要因は過密日程。さらに、けが人が多く今年はベストメンバーの試合は一試合のみであり、特にサイドバックの選手が固定化できていないのです。

そして何より一番重要なのは、進化の過程だということです。去年は守ってカウンター攻撃を重視していました。しかし、今年は相手も警戒して研究してきました。これに対し新しい戦術を考える必要があり、ポゼッションサッカーという、いつ攻撃のスイッチが入るかわからない（相手は守りにくくなります）新しいサッカーに挑戦しているのです。ですから、今年のベガルタは弱いね、とか言われたら「今は進化の途中だからじっと我慢してください。」とぜひ言ってください（笑）

私はスタジアムDJとして98年からやっています。その前からフリーで話す仕事をしていましたがベガルタのDJになったのは、突然のことでした。DJとしての姿勢ですが、何より選手の気持ちを考えて大事にしています。例えば今年の選手ではゴールキーパーの林は最初いろんな疑念をもってプレーしていました。しかし、ある時サポーターと話し合いをすることで気持ちが一つになりました。その結果サポーターに対してアピールするパフォーマンスなどが生まれたのです。その経緯を知っているのとそうでないのでは、選手コールも違うと思います。ケガから復帰した選手、古巣と対戦する選手など、それぞれに想いがあり、その気持ちをくんでコールすることを大事にしています。また同じゴールのコールでも、大幅に得点差があり負けているときのコールと、ラストに勝利につながる

ゴールのコールでは全く想いは違うのです。

### 【これまで】～ スタジアムDJ とよばれて

ベガルタのスタジアムDJ と呼ばれて16年です。これまでどういふことをやってきたのか、これから何をやりたいのかについてお話ししたいと思います。私は仙台生まれで、さまざまな偶然によりサッカーJリーグのスタジアムDJ になりました。最近ではテレビのCMに登場したり（笑）、女子バレーボールやフットサルのイベントにも関わるようになりました。スタジアムDJ の仕事ですが、例えば夜7時からのベガルタのゲームの場合午後1時には会場に入り、チェックやミーティング、リハーサルなどを行います。その後試合開始の1時間前に選手スタメンが発表されるため、そこから原稿を準備したりしています。他にも主なものとして見学案内をVIPや招待の子供達にする場合もあります。ゲームが終わっても取材や片付け反省会などを行いすべてが終わるのが深夜0時を過ぎることもあるため、丸一日以上の重労働なのです。

スケジュール  
の一例  
2013年8月3日  
川崎戦

1:00	会場入り
1:30	台本&サウンドチェック
2:30	ミーティング
3:00	リハーサル
4:15	開場(客入れ) インフォ、 スタジアム見学案内、 スタメン入力、 スタメン紹介、
7:04	試合開始
9:00	試合終了&セレモニー
10:30	最終終了コメント 番組用インタビュー
11:30	ミーティング
12:00	片付け
12:30	終了



### 【スタジアムDJ とは】

では、ここからがリレートークの本番となります。(笑)

そもそもスタジアムDJ は1991年にプロ野球のオリックスでDJ木村という方が最初だといわれています。Jリーグで最も長くやっている人はというと、鹿島アントラーズのダニー石尾さんという方でじつにJ開幕から20年間続けています。(大坂さんは15年) さて、では場内アナウンスやうぐいす嬢との違いはなんでしょう。私は「進行プラスアルファ」の「3つの役割」があると思っています。ひとつは「エンタテイメント」で来場者に「楽しんでもらおう」ということ、次に「インフォメーション」で「案内をする」こと、そして最後に「安全管理」、私がスタジアム全体を見渡せる場所にいることの意味はお客様

が安全にいていただくためにだと思っています。

スタジアムDJとしての想いですが、自分はサッカープレーヤーとしては、中2の時の挫折組（笑）、でもとにかくサッカーが大好きで、「やる」ほうから「見る」側になりました。98年にDJをやったきっかけですが、諸事情により、当日ピンチヒッターで呼ばれたのが最初でした。DJをしながら、選手達がプレーしているサッカーの環境がうらやましかったのを覚えています。仕事としてはフリーランスの立場なのですが、まわりの見方としては「ベガルタ仙台の人」としてみられることが多いため、「いちサッカー人」としてその自覚をもってやっているつもりです。



#### 【いちサッカー人としての活動報告】

震災後ですが千葉直樹と一緒に避難所などの訪問活動をしました。そこで、あそび場もないという話を聞き、次の訪問の時には、寄付をうけたボールをもって、子供達と遊びました。その後いろいろな選手が加わってくれ、徐々に呼ばれるようになってきました。また、全国のスタジアムDJみんなで「声の力」で応援しようと「J-VOICE」というグループを作り活動しています。年一回クリスマスチャリティサッカーにも参加しています。ちょんまげ支援隊のスタジアムに子供達を連れていく活動の手伝いや、選手とのトークイベントを開催し、そこで募った募金をサッカーボールにして寄付したりもしています。

このほかに、妻とともに「トリックアンドトリート」という「シェア型子育てサロン」も行っています。これは子育てするママたちのストレス解消のためのもので、いろいろなイベントを行っています。また、「園児エプロンプロジェクト」というものでは、働くママたちのために被災地の女性たちが園児用のタオルエプロンを制作し、その販売利益を被災地の縫子さんたちの手間賃としてお支払させていただいています。被災地と働くママを結び取組としてこれまでに約1,500枚以上のタオルエプロンを販売しました。

#### 【これからのこと～僕の中にあるベガルタ100年構想】

本当のプロビンチャになるためには、その少ない資金力をチームへの愛でカバーする必要があります、そのチーム愛を育成するのが私の役割だと思っています。育成していく対象に

は選手・サポーター・ボランティアがありますが、とりわけボランティアの「チーム愛」活動の可能性は大きく、最初に「ホスピタリティ的役割の拡大」が重要になります。わかりやすく言えばゲームの際にはボランティアはチームスタッフとしてみられています。だからこそ、ボランティアにホスピタリティについて考えてほしいのです。オリンピックのボランティアのホスピタリティがすごいといわれますが、それはまずオリンピックの歴史を教えること、位置づけを明確にすることから始まり「ともに成功させましょう」という目標のもと誇りを持って活動するからではないでしょうか。そう考えるとボランティアを増やすのはボランティア、サポーターを増やすのはサポーターしかないことがよくわかります。

クラブの歴史を知る(教える)活動としてのスタジアム見学ツアーやボランティア体験があつていいと思います。また、ボランティアのポイント制度などを作る事でコアボランティアとライト層を取り込む工夫などもあつていいのではないのでしょうか。ぜひ、「誇りあるボランティア精神の育成」に取組み、みなさんには「名物ボランティア」になってほしいです。

これは個人的な希望ですが、招待企画の手伝いをしてくれるボランティアとの関係が欲しいし、要望の強いスタジアム見学ツアーをやってみたいと思いますので、よろしく願いします。

#### 【新しい分野】

最後に私は現在地域密着型のモデルケースとして新規スポーツ分野にかかわっています。ひとつは宮城県初の地域に根差したチームである女子バレーボールの「仙台ベルフィーユ」のアリーナD Jとして、また、フットサルのFリーグの参戦をめざす「ヴォスクオーレ仙台」で、今年、準加盟が認められたところです。(その後11月6日に正式に2014-2015シーズンからのリーグ参戦決定)

どちらもチーム愛者を募集中ですのでよろしくお願いします！

ベガルタにあつてベルフィーユに応援も含めて足りないものが沢山あります。逆に足りないからこそ、その分ビッグクラブになりうる可能性があるとも思っています。観客を増やすことが大切ですが、現在のバレーボール界の考える「普及」とはバレーをやる人を増やすことであり、観客を増やすことに重点をおいていません。その仕組みから変えなくては いけません。増やすためには応援するリーダーも必要ですし、みなさんもぜひ、参加して誰かを巻き込む人になりませんか?! よろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

(文責 泉田)